

製品名: セレベリン 1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08679**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	CBLN1
別名	CBLN1; Cerebellin-1; Precerebellin
遺伝子 ID	869.0
SwissProt ID	P23435
免疫原	抗血清はヒト CBLN1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 131-180

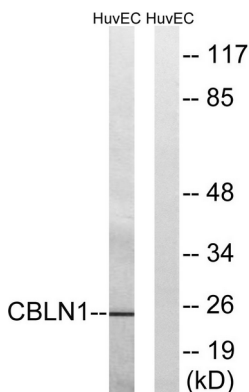
背景

この遺伝子は、補体成分 C1qB の球状（非コラーゲン様）ドメインに類似した、小脳特異的な前駆タンパク質、プレセレベリンをコードしています。プレセレベリンは処理されて、プルキンエ細胞のシナプス後構造に豊富に含まれるヘキサデカペプチド、セレベ

リンなど、いくつかの誘導体を生成します。セレベリンはヒトとラットの副腎にも見つかっており、副腎の分泌活動を増強することが示されている。[RefSeq 提供、2008年8月]、発達段階：出生時は低いですが、セレベリン濃度は5日目から15日目の間に増加し、21日目から56日目の間にピーク値に達します。機能：セレベリンは神経調節機能を発揮します。アデニル酸シクラーゼ/PKA 依存性シグナル伝達経路を介してノルエピネフリンの放出を直接刺激します。また、髄質カテコールアミン放出を伴う傍分泌機構を介して、生体内で副腎皮質分泌を間接的に促進する。機能：セレベリン-1は、シナプスの完全性とシナプス可塑性に必要である。CBLN3のER輸出および分泌に必要である。PTM：セレベリンを生成するタンパク質分解プロセッシングは、シナプス前ニューロンによる分泌およびそれに続くオリゴマー化の前、または成熟タンパク質の放出後の他の場所で起こると思われる。類似性：1つのC1qドメインを含む。細胞内局在：膜に結合または関連する可能性がある。サブユニット：ホモヘキサマー、ジスルフィド結合したホモトリマー。トリマーは球状のC1qドメインを介して組み立てられる。トリマーはN末端システイン残基を介して会合し、ジスルフィド結合したヘキサマーを形成する。おそらくCBLN3とヘテロマー複合体を形成する。CBLN2およびCBLN4と相互作用する可能性がある。組織特異性：プルキンエ細胞におけるシナプス後構造。小脳では、セレベリンは[des-Ser1]-セレベリンよりもはるかに少ない。

研究分野

画像データ



CBLN1抗体を用いたHUVEC細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



セレベリン1ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析